

私の挑戦

宮崎市立大淀中学校

三年

井久保蘭花

八月八日。日向灘沖で震度6弱の地震が起
こった時、私は塾にいた。緊急地震速報が鳴
ると同時に揺さぶられるような大きな揺れが
私たちを襲った。瞬く間に先生と生徒たちは
机の下に避難したか、本棚の本が降ってきた
り、吊るされた照明が振り子のように揺れる
のを見た生徒たちは大騒ぎをしていた。

翌日、塾では家で物が散乱していたり南海

トラフの懸念について話したりすることで大
忙しかった。そんな中放送が入った。
「本日は3階のトイレは使えません」。
泣き面に蜂だった。私はひどく原因が気に
なつたので後に先生に尋ねに行った。すると
原因はなんとトイレの排水管が地震によつて
破損していたのだ。聞くところによると宮崎
の各地で地震による排水管破損が起ってい
たようだ。

そこで私は破損した排水管と破損しなかっ

た排水管の違い、また排水管が破損すると具
体的になぜトイレが使えなくなるのかについ
て興味を持った。そして私は人に聞いたり、
ネットですべて調べてみたりしている内にさまざ
なことを学んだ。

まず、排水管とは下水を公共下水道まで流
す道のりのようなものだ。しかしその排水管
が破損すると下水が途中で漏れ出し、建物の
劣化や衛生環境の悪化、また運が悪ければ浸
水や電気製品が破損する恐れがあるようだ。

私はトイレが使えないところか別のものまで
破損することがあることにひどく驚いた。正
直、最初は「排水管が壊れていてもトイレ自
体が使えなくなるわけじゃないからお金かけ
てまで直す必要はないと思うな」と思ってい
た。しかし実際にはすぐにトイレも壊れるそ
うだし、近所に迷惑をかけてしまうこともあ
ると聞いて他人事ではないなと思った。
ところどころで下水とは何だろうか。一言で言っ
てしまおうと「汚いもの」である。きつとかつ

この私を含めた多くの人たちがそう答えるだろう。しかし私は調べていく内に不意に思った。綺麗なもの消費するからこそ汚い物が生まれる。でもその汚いものも幾度の処理によつてまた綺麗なものとなり海に流される。そして私たちの元へ再び帰ってくる。私たちは綺麗さを失わせたものに一時的に汚いものだと蔑むのは違うのではないかとそう思ったのだ。

日本の年間下水処理量は約一五四億 m^3 だ。そうだが、多くの人は知らないであろう。下水の処理。私は小学校三年生の時に校外学習の一貫で下水処理場に行つたことがある。しかし当時全く興味のなかつた私はただひたすら回る大きなプロペラだけ見て帰つてきた記憶しかない。そこで私はネットです下水処理場の紹介動画を探し、実際に見てみた。下水処理場とは生活排水を綺麗にする施設だ。一つ目の処理では汚水中の大きな汚れの塊を沈めて取り除く。そして空気を送り返ん

で掻き回すことによ、て二つ目の処理に移る。
二つ目の処理では生物を使う。なんと五〇種
類以上の微生物を使い、水の中に混ざ、てい
る細かい汚れを食べてもらうそう。汚水を
綺麗なものに戻すのもエコだ、私の想像し
ていた排気がスを大量に排出するような方法
ではなく、ここまでエコな方法だとは思わな
か、た。三つ目は汚れを食べた微生物たちな
どをまとめて洗めて取り除き、最後に砂や砂
利などを使、てろ過することによ、て初めて

海や川に放流することが許されるそう。だ。
私は最初、も、と工場のように機械をたく
さん使、て短い過程で放流するものだと思、
ていた。しかし、ここまで追求してもエコで、
誰一人として文句が言えないような完璧な方
法だ、た。
私はここまで排気管から下水処理までのこ
とで学んだことをまとめてきたが、結局はい
かに下水道が人々の認知度に対して素晴らし
いものかということだ。っ、い最近までの私は

下水道に興味を持つところかそんなきかけ
が訪れると思ってもみなかった。しかし地震
のおかげで興味を持つことができた、また新
な沢山の発見を得ることができた。エコな行
いをするためにもエコを駆使するという新し
り考えも知ることができた。

私はまだ将来の夢がない。しかし挑戦して
みたいことはできた。それは「下水をさらに
早く、かつ確実に汚れを落とす、大量のエネ
ルギを発電することができないか」という

研究がしたいと思った。